

「私の挑戦」

北京・ホノルルをめざして

佐藤由加さん (JR西日本・岡山支社)





佐藤由加さんは、T34グループでの車いす800メートル走の日本記録を持っている。記録は2分35秒。北京パラリンピックをめざして、週に5日は練習に励む



デスクまわりは少し狭いが、他はバリアフリーで動きやすい



西日本旅客鉄道株式会社・岡山支社

「これからの目標は？」とたずねると、「ホノルル……ホノルルマラソンに出たい……でも、仕事が忙しいからむずかしいかな……」と車いすに乗って笑顔で対応してくれたのは、JR西日本・岡山支社の営業課宣伝グループで働く佐藤由加さん。

佐藤さんは、岡山県北部に生まれ育った。幼いころから、病気のために運動や歩行が苦手だった。中学二年までは自力で地元の学校に通ったが、中学三年から岡山県立岡山養護学校へ転校。ここで車いすマラソンと出会った。

高等部一年のとき、吉備高原マラソン大会・五キロの部で、初めて一位になった。このときから、車いすで走ることが楽しくなったという。

高等部を卒業するころから次第に歩行も困難になり、車いすを使用するようにもなっていた。高等部を卒業後の平成一四年四月、国立吉備高原職業リハビリテーションセンターに入所、オフィスビジネスコースでパソコン等を学んだ。

車いすでも仕事ができる職場をと考えていた佐藤さんは、岡山での合同面接会で、JR西日本・岡山支社の面接に臨んだ。JR西日本も、鉄道業などに設けられていた除外率が段階的に縮小されることもあり、障害者雇用に取り組み始めていた。岡山支社でも、ホームページを立ち上げるための戦力として、佐藤さんの雇用を決めた。

現在、佐藤さんは、支社管内で使用する営業用パンフレット、チラシ等の編集制作と、岡山駅頭の電光掲示板の原稿作成などを担当している。そんな忙しい毎日をおくりながら、北京パラリンピック、ホノルルマラソン出場をめざして、練習にも励んでいる。



上司の指示を受けて仕事を進める佐藤さん



先輩（写真左）のアドバイスを受ける佐藤さん



佐藤さんが担当して制作したパンフレット



佐藤さんの職場は、営業課宣伝グループ



電光掲示板の原稿づくり。文字数、内容、スケジュールの設定と気をつかう



目的別にパソコン3台を使用している



競技仲間（写真右）と
競技展開を相談する佐藤さん



競技用車いすを組み立て、
練習の準備にかかる



10時間の長丁場。ピット内で
くつろぎながら待つ選手たち



8月19日、岡山国際サーキットで開催された
10時間耐久レースで力走する佐藤さん
(7人で交代しながら、午後7時から朝5時まで徹夜で走った)



準備を手伝う佐藤さんのお父さん。
競技会には家族全員で応援にいく



車いすアスリートの第一人者である
松永さんは、佐藤さんの師匠でもある



「さあ、スタート！」



三垣さんは、JR貨物の機関車、乗務員の運用計画を担当している。
計画にミスがあると運休等につながる。気をつかう仕事だ。



同じビルには、もう一人
車いすで働く三垣明彦さんがいる
(JR貨物・岡山支店、運用保安担当)

